

みんなで守ろう！わがまち鳥取市



災害対策の基本となる鳥取市地域防災計画は、①**予防**、②**応急対策**、③**復旧・復興**の3つの視点と、**自助・共助・公助**の活動を基本としています。東日本大震災や豪雪など、近年発生した大規模災害の教訓を踏まえ、この地域防災計画を見直しました。今回は、その見直しのポイントをお知らせします。※「鳥取市地域防災計画」は、鳥取市公式ホームページでご覧になれます。

問い合わせ先 本庁舎危機管理課 ☎0857-20-3127

災害教訓等を踏まえた総合的な見直し

① 東日本大震災、鳥取県の津波浸水予測などを踏まえての津波災害対策計画の充実

② 平成22年末からの豪雪被害を教訓とした雪害対策

③ 避難勧告などの発令基準の明確化

防災基盤の充実強化

① 災害対策の拠点となる庁舎の耐震化・代替施設確保

② 防災無線などの情報伝達体制の充実強化

③ 緊急輸送路整備

④ 救援物資などの供給拠点整備

⑤ 避難所の災害種別による適用性確認

行政と地域が連携した防災体制の強化

① 自主防災組織の体制整備

② 災害時要援護者支援体制の拡充

災害復旧・復興等の支援の体制充実

① 東日本大震災などの実例を踏まえた災害復旧・復興計画の見直し

② 自治体相互の応援協定に基づく支援体制強化

③ 災害における業務継続計画の策定

原子力防災情報の収集・伝達系統整備

① 鳥根原発異常発生時などの情報収集と住民などへの情報伝達系統整備

② 風評被害防止のための情報発信

その他

① 災害対策本部体制（職員配備体制）の見直し

② 気象警報など防災情報に関する諸制度の変更



One For All ! All For One !

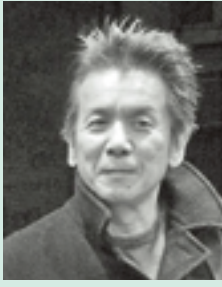
放哉の通学路

僕は新潟で生まれたが三歳から十二歳までを鳥取市で過ごした。だから心の故郷は鳥取市である。新潟出身の父は戦後すぐ旧鳥取高等農林の教員として赴任し市内の和菓子舗「亀甲や」の娘と結婚した。因みにこのとき二人を引き合わせた仲人が高農の校長で千住三兄弟の母千住文子さんの父君である。二人は新潟で僕を産んだ後鳥取市に戻った。立川町一丁目。十三歳で米子市に移るまでここで暮らした。

十四歳で俳句を始めた僕は米子東高校の図書館で「尾崎放哉」を知ったが、当時放哉はまだ一般的には無名で、面白い俳句を書く地元の俳人、くらしいの印象しかなかった。後年あらためて放哉を読んで驚いた。放哉は一八八五年に現在の吉方町二丁目で生まれたあとすぐ立川町一丁目九七番地に移って一九〇二年一高に入学して上京するまでここで暮らしている。

僕が居た場所とほんの数番地しか違わない。そういえば自宅から五十メートルほどのところに古い建物があり、そこになにやら碑のようなものがあつたの思い出した。

俳人・脚本家 今井聖



昭和25年新潟県生まれ。28年鳥取市に移住。修立小を経て鳥大付属小卒業、米子市に移り米子第四中を経て米子東高卒業。明治学院大英文科卒業。46年より俳人加藤楸邨に師事。その後俳句雑誌「街」を創刊主宰。平成元年より脚本家馬場富に師事。映画脚本「エイジアン・ブルー 浮島丸サコン」他テレビドラマなど。句集三冊。自伝小説「ライク・ア・ローリングストーン 俳句少年漂流記」他編著など。現在、信濃毎日新聞俳壇選者および東京新聞神奈川版俳壇選者エンジン01 オープンカレッジin鳥取にゲスト出演

シリーズ

望見 ～鳥取市を想う～

エンジン01 オープンカレッジ in 鳥取の開催にご協力をいただいた講師のみなさまから寄せていただいた、鳥取市へのメッセージを紹介します。

問 本庁舎広報室 ☎ 0857-20-3159

行ってみるとあつた。句碑には、
咳をしても一人

とある。
僕はここから放哉と同じ修立小学校に入学し、三年生とき鳥大附属小に編入学したので、こんどは放哉が鳥取一中（現在の鳥取西高）に通つたのと同じ道を歩いて通学したことになる。

浅からぬ因縁である。母は短期間だが鳥取西高で数学を教えていた。

放哉と僕の共通の通学路は立川町からの「山手通り」。右手に観音院、廣徳禪寺の前を抜けて、樗谿公園から下りてくる上町の十字路を渡りそのまますすぐ西高、附属小に到る道。放哉を思うとき、彼の鳥取弁の句

月夜の葦が折れとる

みんなが夜の雪をふんでいんだ

などとともにも真正面に久松山の見えるこの道を必ず思い出す。

今井 聖／俳人・脚本家
※鳥取大学附属小学校は、今のとりぎん文化会館付近にありました。



放哉も今井氏も通つた道